

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後デイサービス はぐっと		
○保護者評価実施期間	2025年1月17日		～ 2025年2月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	2025年1月17日		～ 2025年2月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	基本的な看護ケアに関しては事故なくできている。	医療的ケアの必要事項を個人ごとにまとめてスタッフ間で情報共有している。	ケアだけでなく療育活動も実施できるように、職種に関係なく療育の目的や内容を把握していく。 スタッフの変更にも対応できるよう、定期的に看護職員MTGを開催する。
2	新しい職員も多い中、現場での動きに関しては全体的に把握できている。	毎朝その日の流れを朝礼で常勤スタッフにて共有し、後から出勤した非常勤職員とも情報共有するようにしている。	その日の流れだけでなく、制度上必要な事項についても情報共有していく。
3	少しずつ一人一人のスタッフが「どうしたらいいか」を考えることができるようになりつつある。	定期的に事業所の運営MTGを開催し、ひやりはっとなどのリスク管理事項については必ず振り返りを行っている。	スタッフ間で改善案をシェアしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【場所が狭い問題】 事業所の療育スペースが狭いために、利用児がノビノビと過ごづらい。 移乗介助時に他の利用児に当たりそうなのがある(特に入浴後の水分摂取するタイミング)	場所が狭いこと自体は変えられない要因が大きいですが、限られた場所の中でどう安全で快適に過ごすか、についての工夫を検討することが十分にできていない。	狭い事業所の中で、スタッフがどう動き、環境をどう活用するといったか、検討する機会を適宜もつ。
2	【スタッフのマンパワー・教育の問題】 医療的ケアや基本的な生活動作のケア(オムツ交換やお風呂など)にマンパワーが割かれてしまい、「もう少し関わって療育的な支援してあげたいけどできない」ということがある。	少ない人員でどう動いたらより質の高い支援ができるか、ということや、業務の優先順位(状況によってまずは安全第一、それができたら療育活動、など)のスタッフ間での情報共有が不十分。	・1人1人一つずつケアのモレやミスが出ないように実施していく。 ・左記の内容をMTG等で共有、検討する。
3	【スタッフ間や保護者様との情報共有が不十分】 事業所運営をする中で、制度上スタッフへ周知が必要なこと(安全計画や事業継続計画、支援計画の内容等)について、スタッフ間での情報共有や保護者様への発信が不十分。	スタッフや保護者への周知が連絡帳やLINEWorks上のみとなっていることもあり。	スタッフへの周知についてはLINEWorksだけでなく、必要な研修以外にも紙面での回覧や、口頭での周知を行う。 保護者様へのご案内については送迎時に直接口頭にてお伝えしたり、SNSや連絡用のアプリの連絡帳以外の欄を活用したりする。